

GRIPS 国内同窓会報

発行日：2024年3月19日 発行者：政策研究大学院大学国内同窓会 発行責任者：稲葉尚子
事務局連絡先：〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1 TEL 03-6439-6048 E-mail alumni-ml@grips.ac.jp

GRIPS 恩師インタビュー第7回 横道清孝先生～GRIPSの応援団として、温かい見守りを



横道清孝先生プロフィール

1975年東京大学法学部卒、同年自治省入省、1980年和歌山県総務部地方課長、1983年国土庁地方都市整備課課長補佐、1984年自治省政治資金課課長補佐、1988年埼玉大学 大学院政策科学研究科助教授、1997年政策研究大学院大学助教授、2000年教授、2011年学長補佐、2013年副学長、2017年理事・副学長、2021年特別教授・グローバルリーダー育成センター所長、2023年名誉教授・客員教授。

主要な著作・論文等

「2040年に向けて持続可能な市役所」『人口減少時代の都市行政機構』2020年ほか多数。

CONTENTS

GRIPS恩師インタビュー第7回…1	
新役員が決まりました …4	
国内同窓会開催報告 …5	
社会科見学会報告 …6	
修了生紹介（金川幸司さん）…7	
同窓会・大学からのご案内・編集後記 …8	

(鈴木)

今日はよろしくお願ひします。まず、先生の生い立ちからお伺ひします。先生はどこの御出身ですか。

(横道先生)

生まれは山口県の田布施町という所で、ここは岸・佐藤・安倍元総理の地元中の地元です。その後、父親の転勤で徳山市（現：周南市）、萩市と移り、幼稚園の年長のときに東京のお台場、品川に來ました。東京にいたのは小学4年の途中まで、東京タワーができた頃、安保騒動のときでした。

(鈴木)

正に「三丁目の夕日」ですね。

(横道先生)

子供で「安保反対、安保反対」ってスクラム組んで遊んでいました。10歳のときに大阪の大東市に移って、中学校は地元の学校、高校は大手前高校に行きましたが、3年生のときに、父親が地元に戻るのので徳山高校に転校しました。

(鈴木)

では、徳山高校から東大法学部、自治省に進まれたのですね。自治省に入った志望動機は何ですか。

(横道先生)

当時は司法試験を受けるというのが普通でしたが、さすがに難しくて1回落ちました。留年するつもりでしたが、その後受けた公務員試験が、たまたま1回目を通りました。それで、成績もそんなに悪くなかったし、金の計算は嫌だし英語も余り上手じゃない、法律の方がいいんじゃないかということで、自治省に入りました。同期は17人で、GRIPSの教授を務められた井川博先生や武田文男先生もいました。

(鈴木)

入省後3か月で福島県に行かれたのですね。

(横道先生)

事前に提出した希望とは全然違うところでした。当時の総務課長が「福島で鍛えてもらおう」と考えたのだと思います。特に会津地方では、「あなた、御出身どこですか」と聞かれて答えたら、「えっ、そうですか」となりました。

最初は企画調整課に配属され、長期計画、国土利用計画、新産工特など、計画づくりを担当しました。その当時、電卓では3行3列の行列式の計算がようやくできるくらいだったので、産業構造のモデル推計を行うのに経済企画庁のコンピュータを使わせてもらったりしていました。三全総がまだできる前、下河辺淳さん（後の国土事務次官）が計画調整局長をやっておられたころです。

福島第一原子力発電所が稼働し始めたころでもあり、私は、第二原発の建設現場に入ったことがあります。企画調整課で2年弱勤務したのち、1977年に地方課に異動しました。

(鈴木)

次が和歌山県ですか。

(横道先生)

一度、自治省の給与課に戻り、1980年に和歌山県の地方課長として赴任しました。和歌山で印象に残っているのは、県事務所長の皆さんたちです。当時は県事務所長に政治的な話も含めて結構な権限が与えられていました。中には特攻隊の生き残りのような人もいて、自分の人事をひっくり返すなど、いろいろ面白い話がありました。

苦勞したのは財政再建団体の対応です。当時全国で6つぐらいしかないのに、和歌山県に2つありました。予算の



インタビューで答えられる横道先生

お伺いを立てるのに町長と一緒に東京に行って、自治省の財務調査官に説明する必要がありました。補正もそのたびごとです。

(鈴木)

次が国土庁の地方都市整備課ですね。

(横道先生)

課長補佐で戻りました。補佐が3人だったと思いますが、当時の通産省から、明るく元気がよい若い女性の補佐が来ていて、この人が後に大阪府知事、参議院議員となる太田房江さんでした。

(鈴木)

自治省に戻られたとき体調を崩されたと伺いました。

(横道先生)

政治資金課のとき、大病しました。もともとアトピーの体質があったのですが、急に増悪し、それが原因で眼が見えなくなり、自治医科大学で白内障などの手術をしました。70日余り入院しました。

昔から刑務所に入ったり大病して入院したりすると人生観が変わると言いますが、確かにそれはいい経験をしたとも言えます。

(鈴木)

入院されたのは、30代前半ぐらいですよ。

(横道先生)

そう、34歳。日航機が御巢鷹山に墜落した後です。

(鈴木)

その後に埼玉大学にいらしたのですね。

(横道先生)

井川先生が埼玉大学から自治大学校に移られた後、官房から呼ばれて話がありました。体調回復のためにも、「是非そうさせてください」と。

当時まだ50代だった吉村融先生の面接を受けました。2~3年で戻るはずが、吉村先生に「もう1年いいですか」と延長をお願いし、そうこうしているうちにGRIPSをつくらうという話になってきました。

(稲葉会長)

つくる場所については、いろいろな話があったと伺っています。最初、埼玉県の朝霞とか。

(横道先生)

朝霞は候補地だったのですが、条件が折り合いませんでした。そのとき、大学院大学をつくることは決まっていた。それで、神奈川県湘南国際村に本部を置くこととなりました。大学を新設するためには、国立学校設置法(当時)を改正しなければいけないし、別表のところに加えるための住所がないといけない。だから、湘南国際村にある総合研究大学院大学の一角に「政策研究大学院大学」という看板を掲げました。

(稲葉会長)

確かにウィキペディアでは、湘南国際村の主な進出団体の一番に総合研究大学院大学が出てくるのですね。

(横道先生)

キャンパスについても、神奈川県から土地を用意するから来てくださるとの話もあったと思うのですが、計画どおり進まなくなってきた、結果、湘南国際村に本部があり、若松町の旧税務大学校を分校とすることになりました。分校の方が大きいのですが。

(稲葉会長)

それでは、ここも分校ですか。

(横道先生)

いえ、もうここに移っています。

この土地には、もともと、アートギャラリーの美術館構想が先にありました。日本の伝統芸能は国立劇場が半蔵門にあり、洋楽・オペラ系統はオペラシティが初台にあります。それに加えて、絵画とか書道などの展示を行う美術館をどこかに作らうという構想があり、ここが、その適地とされました。

そして、「隣にまだ1.5haぐらい土地があるから、そこへ建てれば良いのではないかと」。

(稲葉会長)

結果的に一番いいところになりましたね。

(横道先生)

吉村先生は自虐的に「さまよえるオランダ人」とおっしゃっていた(笑)。けれど、吉村先生がものすごく苦労されたことが、結果につながったのです。

(鈴木)

横道先生のGRIPSでの活躍を伺わせてください。2013年副学長、2017年理事・副学長、2021年特別教授、2023年退職と伺っていますが。

(横道先生)

特別教授を退職したのが2023年の3月です。

私がGRIPSに行ったのは1988年ですが、良い時代でした。景気がいいから、国にも自治体にもお金があって、今と違った意味での人材確保策が必要だったので、学生集めは全然心配がありませんでした。

ところが、バブルが崩壊し、90年代半ばぐらいになると自治体でも採用が減って、例えば広島県庁の採用は行政職で1人という年があるような状況になりました。

海外プログラムは、「Japan as Number One」というのがまだ輝いていて、また、冷戦が終わったこともあり、下村恭民先生のIMFプログラムというのが非常に好評で、「もっとやってくれ」ということで、その心配はありませんでした。

問題は国内プログラムでした。自治体の採用が減る一方で、東大が専修コースというのを法学部につくり、続いて京大がその2分の1のサイズで名前が同じ専修コースをつくりました。そうすると、まず人事院の派遣枠が少なくなります。つまり、今までは筑波と埼玉で分け合っていた枠に東大と京大が入ってきたのです。自治体でも専修コースに行く人間が出てきて、このままでは、じり貧だなという状況になってきました。それを、GRIPSをつくる機会に一発逆転しようとなったのです。

そのときは、内部でも相当議論しました。どういうカリキュラムにするか、どういう形にするかという。当時、吉村先生を始め、いろいろな先生方と話をし、国内プログラムを公共政策と地域政策の2つに分けることにしました。そして、私と辻塚也先生が地域政策を担当することになりました。

最初の学生集めが肝腎ですが、それには旗印が必要です。非常にタイミングがよかったのは、地域政策が始まる2000年から地方分権一括法が施行されたことです。スローガン「地方分権時代の自治体職員を養成する」とし、中央省庁の職員に負けない構想力と行政運営能力を持つ人間を養成するというのを旗印に掲げたわけです。

そして、自治省に行って、これこれこういうことをやるのでと言って、いろいろ相談に乗ってもらい、公務員部長名で各都道府県知事宛てに推薦文を書いてもらいました。こちらで用意した案文を読んで、「これでいいのか。もうちょっと強めに書いた方がいいんじゃないのか」と。タイミングが良かったこともあり、今では考えられないぐらいに強力な文章の推薦文となりました。

(稲葉会長)

もう職員を行かせなくちゃいけないんだと。

(横道先生)

吉村先生と2人で、知事のところに行って「職員を出してくれませんか」とお願いすることなどもしました。その結果、最初20名ちょっと集めたんです。1期生は非常に多士済々で、最初は送り出す側も大変だったと思いますが、おかげさまで優秀な人たちが集まりました。部長になっている者も多くいます。

タイミングとして旗印があって、自治省が強力な推薦文で助けてくれたことは非常にラッキーでした。「分権



インタビュー終了後役員と

時代には人材育成が必要」というのは、そのとおりですから自治省も推薦しやすかったのだと思います。まだうちのような大学はほかにはできていなかったです。

(鈴木)

ところで、GRIPSをつくるに当たって海外視察に行かれたそうですね。

(横道先生)

吉村先生から「来年度GRIPSができる。については、出張旅費を用意したから、そのために参考になることを勉強してこい。」と言われました。どこに行くかは、自分で自由に決めろということでした。

まず、ピッツバーグ大学は、公共政策大学院があり、吉村先生が親しくしておられた先生がいらっしゃるのので、その先生に会って話を聞きに行くこととしました。

また、私は個人的にはハーバード大学のケネディスクールとフランスの国立行政学院(ENA)とランド研究所が合体したようなものをつくりたかったので、ハーバードのケネディスクールとフランスのENAに行くこととしました。イギリスでは、科学技術政策で世界トップのサセックス大学のSPRU (Science Policy Research Unit)、開発研究で有名なロンドン大学のSOAS (The School of Oriental and African Studies)、LSE、公務員大学校 (Civil Service College) に行くこととしました。

さらに、当時UCLAも新しい公共政策大学院をつくり、その院長代行と企画部長が来日してきて、吉村先生と一緒に面談する機会がありましたので、「今度行くから」とお願いしました。

日程を組むに当たって、佐藤誠三郎先生から「ヨーロッパから回った方が体が楽だ。」とのアドバイスを頂いたのでフランス、イギリス、アメリカの順に行くこととしました。

アポ取りではENAが大変でした。当時、まだメールはないし、一介の埼玉大学の助教授が訪問させてくれと言っても絶対受けてくれません。そこで、自治省の先輩である人事院の事務総長に相談し、在フランス日本大使館経由で話を通してもらいました。

(鈴木)

それだけの訪問先を1か月で回られたのですね。

(横道先生)

フランスは1週間弱。ENA(現INSP)は、今はもうストラスブールに統合されましたが、当時はまだパリとストラスブールに分かれていました。まずパリに行き、それから飛行機でストラスブールに飛んで行って話を聞きました。CLAIR(クレア)のパリ事務所の人に随行をお願いしたのですが、彼らも喜んでくれました。ENAに行けるなんてめったにない機会だったのです。

その後、できたばかりのユーロトンネルを歩いてイギリスへ行きました。1週間で4か所を訪問しました。ダイアナ妃がまだ生きていて、チャールズ皇太子(当時)との離婚騒動で新聞を賑わせていました。

そして、ボストンに飛びました。ホテルに着いたのが夜だったのですが、どうも手違いがあったようで、ケネディスクールにいた自治省の後輩をお願いしていた部屋の予約が入っていませんでした。角部屋が空いているということで部屋に入ったのですが、下がバーでうるさい。着いた夜は金曜日で、Friday night feverで騒いでいるんです。

「私は騒音を聞くためにわざわざ日本からハーバードまで来たのではない。」と電話で抗議したら、部屋を換えてくれました。

あと印象に残っているのは、対応してくれた教務担当教授から「研修で州の局長たちに講義するから聞くか」と言われ、参加したことです。「きょうは珍しいゲストが日本から来ている」と紹介され挨拶をしましたが、スタンディングオベーションで歓迎してくれました。

アメリカは良いところですが、アメリカで生きていくにはエネルギーが要りますね。直感的に日本の倍ぐらいは必要な感じがします。若いときはいいけれど、年を取ってからは大変だと思います。

(鈴木)

大変でしたね。ありがとうございます。先生、結びに修了生に何かメッセージをいただけますでしょうか。

(横道先生)

修了生の皆さんは、GRIPSの応援団ですね。私も応援団の一人です。皆さんには、応援団としてGRIPSを温かく見守り、応援していただきたいと思います。

(聞き手：稲葉会長、関口前幹事、鈴木前幹事)

新役員が決まりました

2023年11月23日に開催された同窓会総会において、次期会長の選出、副会長・幹事指名が行われ、以下のとおり選出されました。(敬称略)

○会長：稲葉尚子(1989年修了、一般社団法人埼玉県歯科医師会 参与)【再任】

○副会長：藤井睦子(1990年修了、大阪教育大学・副学長・教授)【新任】

○副会長：山崎健(1994年修了、会計検査院 審議官)【新任】

○副会長：坂明(1986年修了、デジタル庁チーフ・インフォメーション・セキュリティ・オフィサー)【留任】

○副会長：山下保典(2001年修了、奈良県土地開発公社理事長)【留任】

○幹事：増田文之(1991年修了、埼玉県産業技術総合センター北部研究所 総務・事業化・製品開発支援担当 主任専門員)【新任】

○幹事：若山晃(1995年修了、埼玉県加須保健所 総務・地域保健推進担当 主任専門員)【新任】

○幹事：中村理史(1989年修了、㈱ジェイアール貨物・総務企画部企画室 次長)【留任】

○幹事：松田(西谷)美恵子(1992年修了、(公財)東京都福祉保健財団 城北労働・福祉センター企画広報係長)【留任】

山本亮三副会長(兵庫県)、反町敦副会長(群馬県)、鈴木賢一幹事(千葉県)、関口吉男幹事(埼玉県)は退任となりました。会の運営にご協力をいただきありがとうございました。

稲葉会長のあいさつ

このたび会長に再任され、2年間、左記の皆様方と同窓会運営を進めていくこととなりました。コロナ禍でできなかったこともありますが、逆にweb会議などでもできることも増え、全国と同窓生がつながる可能性も高まっています。これまで役員を経験された方はもちろん、すべての同窓生のご協力、ご意見を頂きながらGRIPS応援団としても歩んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

新役員の方々



藤井副会長



山崎副会長



増田幹事



若山幹事

2023年度国内同窓会を開催しました！～4年ぶりで懇親会も開催

2023年度同窓会が2023年11月23日に行われ、また、4年ぶりに懇親会も開催されました。修了生43名、現役院生1名が出席し、恩師との再会、そして同級生、先輩、後輩との話が弾み、盛会のうちに終了しました。

第1部では、想海楼ホールにて松田幹事司会のもと、稲葉会長から開会の挨拶の後、役員を紹介・挨拶がありました。

関口、鈴木の両幹事から同窓会活動報告の後、大田学長から挨拶があり、最近のGRIPSの状況をお話しいただくとともに、修了生の皆様にGRIPSの応援団になってほしいとのメッセージがありました。



次いで、道下理事より「日本の新安全保障戦略-台湾防衛への貢献と課題」と題した講話が行われました。時宜にかなった話題で、国際情勢を理解するのに大変参考となりました。

次期会長の選出、副会長・幹事指名に移り、稲葉会長の再任や藤井、山崎両副会長の新任などが決まりました。

修了生の報告はひょうご外国人介護実習支援センター実習支援部梶本出部長（1992年修了、GSPS国内プログラム）からです。「外国人介護人材の受け入れと支援について」と題して、オンラインにて近況報告を頂きました。なお、首都高速道路(株)の坂田さん（2018年修了、公共政策プログラム）からも報告をいただく予定でしたが、残念ながら体調不良のため、欠席となりました。

最後に記念撮影を行い、第一部は終了となりました。

第二部の懇親会では中村幹事が司会を努め、黒澤理事の乾杯に始まり、懇談中に、修了生の持ち寄った地酒の紹介や遠方から参加した修了生から近況などについての一言いただく時間が設けられました。

最後は横道先生の挨拶で締め、記念撮影をし散会となりました。（鈴木記）



同窓会各支部からの開催報告

○岐阜県・愛知県・豊田市合同同窓会

2023年8月10日に名古屋に横道先生をお招きし、岐阜県・愛知県・豊田市による合同の同窓会を開催しました。先生から、GRIPSの最新情報や修了生たちへのメッセージをいただき、GRIPSでの出来事も思い出され、支部を越えて修了生同士が語り合うことができました。（須賀洋介・2020年GRIPS修了）



○福島県支部

横道先生のヤングリーダーズプログラムでの来県に合わせ、2023年7月31日に福島県派遣者と先生と親交がある方を交え、懇親会を開催いたしました。他にも、2023年4月にベトナム政府の幹部研修、同年9月にはGRIPS防災コースの被災地視察など、GRIPSから本県にお越しいただいており、今後も機会を捉えて、同窓生の交流の機会を設けていきたいと考えております。（古内忠信・2001年GRIPS修了）

○インフラ政策支部

2023年10月13日に森地茂先生の傘寿のお祝いを兼ねて4年ぶりに同窓会を実施しました。当日は、森地先生、日比野直彦先生、知花武佳先生のほか、インフラ政策コースの卒業生・在校生88名の方に出席いただきました。（坂下文規・2009年GRIPS修了）



○東京都支部

これまで、修了生が知り合う場がなかったので、名簿作成から始め、2023年7月に第1回懇親会を開催、8月に支部登録しました。2024年2月には吉野先生をお招きして、第2回懇親会を開催しました。現在会員数22名です。まだ、互いに知らない会員も多いので、まずは、いろいろな機会であらゆる交流を重ねていきたいと考えています。（松田（西谷）美恵子・1992年GSPS修了）

○埼玉県支部

大山先生や高田副学長、畠中先生をはじめGSPS修了生にはとてもなつかしい田辺さん（現在も埼玉大学）やGRIPS職員の皆様をお招きし、2023年9月に4年ぶりの同窓会を開催しました。

GSPS時代の修了生から現役生までが参加し、近況報告や懇親を深めることができました。今後もこうした機会を通じて同窓会のネットワークを深めていきたいと考えています。（坂井智彦・2020年GRIPS修了）



○教育政策プログラム

2023年12月17日に教育政策プログラムで学んだ有志による合同同窓会を開催しました。お世話になった先生方をお招きして教育経済学に関するご講演を賜ることができ、GRIPSで学んだ当時を思い出すひと時となりました。同窓会参加者の近況報告でも盛り上がり笑いの絶えない同窓会となりました。既に教育政策プログラム自体は終了していますが、今後も教育現場の諸課題を共有する場としてこの同窓会ネットワークを強化して参りたいと思います。（石倉義之・2010年GRIPS修了）



報告 | 社会科見学会～首都高更新事業の工事現場を視察しました

今回の社会科見学会では、首都高速道路の『首都高リニューアルプロジェクト』の一環として工事が進んでいる、1号羽田線(東品川・鮫洲)更新事業の工事現場を視察しました。

首都高速道路株式会社の御協力を得まして、2023年12月11日に社会科見学会を実施しました。今回の見学先は、首都高が進めている『首都高リニューアルプロジェクト』の一つ、1号羽田線(東品川・鮫洲)更新事業の工事現場です。この区間は、首都高におきましてリニューアルプロジェクトの第一弾であり、フラッグシップと位置付けられています。既に開発された都市内に、道路や河川などの公共空間を利用して建設された首都高、そのほとんどが高架橋やトンネルなどで構成されています。安全・安心そして円滑な道路交通を提供するため、これらの構造物には、きめ細やかな点検と補修を日夜行っています。しかしながら、開通以来50年以上にわたる過酷な使用や、激しい海水による腐食環境により、重大な損傷が多数発生した天王洲アイル駅付近から、鮫洲運転免許試験場付近までの約1.9kmの区間の道路構造を、次の時代へと繋ぐため、長期耐久性・維持管理性に優れた構造に造り替えています(図-1)。

当日は、雨も心配されましたが、19人の方々に参加していただき、最後まで降られずに見学会を終えることができました。現場に向かう前に、まず、稲葉会長が冒頭の挨拶で首都高のみなさまに感謝の意を表しました。続きまして、担当者から工事の概要につきましてスライドを用い教えていただきました。

工事区間は、鮫洲区間のプレキャストボックス工事と東品川区間の橋りょう工事という、二つの工法で施工されています。鮫洲区間は、地盤改良後の埋め立て地盤の上にプレキャストボックスを敷設し、その上面に道路を造っています。また、東品川区間は、橋りょう形式で道

路を造っています。

我々は、スピーカー付ヘルメット(これは優れモノ)を被り、鮫洲区間のプレキャストボックスの中をしっかりと観察しながら、

道路の下となるコンクリートで囲まれた空間を進みました。東品川区間では、表に出てギリギリそばを走るモノレールや運河を眺めながら楽しく見学することができました。



現場の最後にみなさんと広々とした橋の上で集合写真を撮りました。その後、見学現場を出て、近くの広場で締めを行い、場所替えし数人で軽く

懇親会も行いました。

最後に、首都高の坂田喜章(同窓生)さんをはじめ多くのみなさま、GRIPSのみなさま大変ありがとうございました。

(関口記)



図-1

修了生紹介

政策の現場からNo.7

政策科学との出会いから研究の世界へ

金川幸司 さん(GSPS1986年修了)

静岡県立大学名誉教授

今回の修了生紹介では、静岡県立大学名誉教授の金川幸司さん(兵庫県出身)から寄稿をいただきました。

私は、2021年3月に静岡県立大学を退職し、現在は、複数の大学、大学院で政治・行政学・地方自治論関係で教鞭を執っている。また、自治体関連の仕事も抱えており、今しばらく忙しい日々が続くそうである。趣味は、テニス、スキー、映画鑑賞といったところで、最近、高校時代の友人と山歩きも始めた。しかし、研究に関しては、本人の意欲の問題が大いに関係しており、定年という概念はないのではないかと考えている。また、近年は海外の文献などもほとんど電子化されており、ネットにつながったパソコンさえあればどこからでもアクセスできるし、オンラインでの国際学会等への参加も可能になっており、かつてと比べると研究を取り巻く環境は激変している。また、オープンデータ化やAIの進歩によりさらなる変化が予想される。

私が埼玉大学大学院政策科学研究科に入学したのは1984年で、それから40年も月日が流れており、まさに、光陰矢の如しである。当時は、学生数も日本人学生と留学生を含めても数十人といったこぢんまりとした規模であった。また講師陣もアメリカでPhDを取得して帰国した若い先生方が多く、学生との年齢が近いこともあり、講義の後よく飲みに行ったりした。

在籍時は、政治学でいうとシステム論や多元主義などが主流であったが、その後、新制度論を初めとする実証主義政治学の進化や、脱行動論革命としてのロールズの正義論、サンデルのコミュニタリアニズム、アーレントやハーバーマスのコミュニケーション倫理などの政治哲学の現代的復権が起こることになる。私自身は、阪神大震災を現場で経験したこと、さらに、冷戦崩壊後の1990年代の熟議民主主義の流れを受けて、国内外をフィールドとして、ローカルガバナンスに関する研究を行ってきた。研究科では、データを収集し、統計的手法を用いて、分析する講義が中心的に展開されており、私にとってはその後の研究に大いに役に立ったことは言うまでもない。しかし何よりも大きかったのは先生方との距離の近さであり、研究というものをごく身近に感じることができたと言う点である。また、全国各地の自治体、国、東南アジアからの留学生との交流も大きな刺激であった。私個人についてはこのような環境の中で、政策研究

に対する強い興味を持つようになった。修了後は、県庁に戻り外郭団体のシンクタンクで調査研究を続け、その後大学に転出することになった。

大学院の設置に関しては、博士課程の新設に携わった経験があり、文部科学省にも何度か足を運んだ。大学・大学院の設置は多くの労力が必要であるが、新しい分野の大学院の設置を1970年代に進められたことについては想像を超えるご苦労があったと推察される。また、例えば、英語で講義をするといった形態などは、今ではかなりの大学で採用されているが、当時の文部省からは、なかなか理解を得られなかったと伺っている。現在では政策系の大学や大学院は一般化しているが、吉村融先生を始めとした方々が、まさに、そのフロンティアとしての役割を担われたのだと思う。日本における大学や大学院のあり方に関しては様々な議論が起こっており、研究費の削減、基礎研究の軽視、国際ジャーナルへの投稿の国際的地位

の低下などを考えたとき、このままでは科学技術立国としての将来は危ういといえる。また、社会科学の分野においても、研究がドメスティックに完結するだけではなく、国際的な共同研究や国外に対する情報発信をさらに行っていく必要があるのではないかと考えている。そういった意味でGRIPSの今後のさらなる発展を切に願っている次第である。



略歴

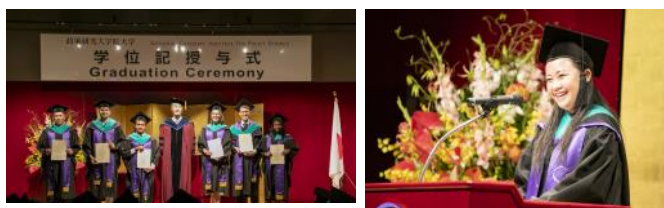
- 1980年 早稲田大学法学部卒業
- 1980年 兵庫県庁入庁
- 1991年 (財)21世紀ひようご創造協会地域政策研究所研究員、主任研究員
- 2001年 福岡工業大学社会環境学部助教授
- 2005年 岡山理科大学社会総合情報学部教授
- 2008年 同志社大学大学院総合政策科学研究科より博士(政策科学)を取得
- 2010年 静岡県立大学経営情報学部教授
- 2013年 静岡県立大学経営情報イノベーション研究科長(2016年まで)
- 2021年 静岡県立大学退職
- 現在 静岡県立大学名誉教授、客員教授、立命館大学客員研究員ほか

母校の動き

2023年9月秋季学位記授与式挙行

2023年9月13日、GRIPS創設以来23回目の秋季学位記授与式を挙行、世界45ヶ国からの修了生146名（修士141名、博士5名）に学位が授与されました。

丸紅株式会社 取締役会長（一般社団法人日本貿易会 会長）の國分文也 様による記念講演を賜り、修了生代表としてPublic Finance ProgramのSreng Sothav Roth さん（カンボジア税関）が修了後の抱負を述べました。



GRIPS国際同窓会のお知らせ(5月)

2024年5月18日（土）15:00~16:35（仮）にて、ハイブリッド形式で国際同窓会を予定しております。こちらは全てのプログラムの修了生が参加可能となっております。詳細につきましては、追って大学ホームページ等にてご案内いたしますので、各種SNSをご確認ください。



ホームページ 公式Facebook Facebook 公式X
GRIPSコミュニティ

GRIPS新修了生システム導入のお知らせ

これまでの同窓会データベースに変わり、新しく修了生システムを導入予定です。GRIPSメール以外に連絡先を登録されていない方は、alumni-ml@grips.ac.jp宛に、利用しているメールアドレスをお送りください。修了生システムご登録の準備ができましたら、大学より登録されたメールアドレスにご案内を差し上げます。

新しいコースが始まります

2024年度より、2008年に開設された「まちづくりプログラム」を発展的に改組した、修士課程「公共政策プログラムまちづくり政策コース」が始まります。ぜひ、勤務先等でご案内ください。



https://www.grips.ac.jp/jp/education/dom_programs/public/urbanpolicy/

大学からのご案内

GRIPS基金ご協力をお願い

GRIPSには、ミッドキャリアの行政官を中心に、日本を含む世界56の国と地域から学生が集まっており、世界で活躍できる指導者・政策プロフェッショナルの養成に努めています。

皆様から募った基金を奨学金として、未来のリーダーを支援することにより、日本及び世界の持続的発展に繋がること、また、研究資金として、本学の政策研究活動を支えることにより、この分野での世界における本学ひいては日本のプレゼンスの向上に繋がることが期待されます。

基金へのご寄付は、銀行振込・クレジットカード決済にて受け付けております。ぜひ、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



修了生の皆様へ

◆GRIPS Newsletterのご案内

広報担当では修了生の皆様に、GRIPS NewsletterをG-way登録のアドレスへ配信しています。新規登録・配信先アドレス変更・登録解除をご希望の際はそれぞれ以下のQRコードからお手続きくださいようお願いいたします。（いずれも簡単な操作で完了します）



新規登録



アドレス変更



配信登録解除

◆『政策研究大学院大学25周年誌』を大学公式HPにおいてPDF版を公開いたしました！Home>広報物のページよりご覧ください。

■■編集後記■■■

同窓会報第7号をお届けします。今回は、GSPSのときからおられる横道先生にインタビューをしました。GRIPSの創立時の裏話や、自治省在籍時の御苦労、また海外出張の体験談など貴重なお話をお伺いしました。

今まで、恩師インタビューに3回同席いたしましたが、先生方の警戒に接することができ、大変勉強になりました。

その他にも金川さんからの寄稿、社会科見学会や各支部からの報告など盛りだくさんとなり、編集には苦労しました。

この同窓会報の編集を持って、同窓会の最後の仕事を終えることとなります。4年間の幹事を務めました。最初の2年間はコロナの関係で、わずかに同窓会をリモートで開催する程度で、活動らしい活動はできませんでした。ようやく、昨年度は同窓会で懇親会もできるようになり、社会科見学会も多くの方に参加いただけるようになりました。

今後とも、同窓会の行事にさらに多くの修了生の方に参加いただき、GRIPSの応援団となるような活動ができるよう祈念しております。私も微力ながら協力したいと思っております。

（鈴木賢一 前同窓会幹事・GSPS1996年修了）